

「赤ひげ」

5 とある長屋・辰蔵の家

夕食の膳を囲んでいる、おまさ、辰蔵の弟・三郎（13）、辰蔵の妹・おその（12）。

ポツポツと食べていた、おまさかふとため息をついて箸を置く。

三郎「どうしたんだい、おつかさん」

おその「おつかさん、辰蔵兄ちゃんが心配なの？」

おまさ「あ……。うん」

三郎「こんな時におつきい兄ちゃんがいてくれたらいいのにね」  
おその「おつきな兄ちゃん、次はいつ帰って来るんだらうね」

おまさ、部屋の隅に置かれた使われない箱膳を見る。  
隣にもう一つ、使われていない箱膳がある。

10 とある長屋・辰蔵の家

三郎とおその、そしておまさと共に夕食を食べている伸吉。

饒舌な伸吉、身振り手振りを交えて、皆を楽しませている。

伸吉「で、その時よ、とっさによけたら、猫の尾っぽを踏んじまっつて」

三郎「それで、どうなったんだい？」

伸吉「猫がギヤーツて怒って飛びかかって来たから、まあ俺は逃げる、逃げる。そうしたら、今度は肥だめにけつつまづ

いて、ドボンよ」

おその「！ 肥だめ」

三郎「！（鼻を摘み）くっせえ」

おまさ「ほら伸吉、飯の最中になんだい」

と言いながらもニコニコ話を聞いている、おまさ。

辰蔵の声『それでもおつかさんは、そんな兄貴をずっと許して来たんです』

45 とある長屋・辰蔵の家

三郎とおそのが「ただいま」と帰って来る。

三郎「あ、辰蔵兄ちゃん」

辰蔵「おかえり。おつかさんを手伝ってやってくれよ。」

三郎・おその「うん」

おまさを手伝う、三郎とおその。